

令和2年産 葉たばこの販売を終えて 【総括】

令和2年11月6日
宮崎県たばこ耕作組合

◆令和2年作 目指す葉たばこ作り

- ★ 基本耕作技術を「適期に・確実に」実行し、気象に左右されにくい「根張りの良い葉たばこ」作りを！
- ★ 収穫葉数17～18枚程度の早作タイプの地域にあった標準作柄で、肥料切れの良いものを！

◆令和2年産 生産目標

10a当重量	250kg
1kg当代金	2,000円
Aタイプ生出率	750‰
10a当代金	50万円

◆令和2年産 実績

10a当重量	236kg
1kg当代金	1,892円
Aタイプ生出率	515‰
10a当代金	447,043円

・令和2年作は昨年に引きつづき「目指す葉たばこ作り」を念頭に、「根づくりに着目した耕作技術の実践」を最重点課題として収量・品質の確保を図り、生産目標を達成すべく取り組んできた。結果としては、農家の懸命な取り組みにもかかわらず、気象条件的に厳しい年となり、収量・品質とも目標を達成できず課題を残すこととなった。本年作においても地域差、個人差が大きく、来年作に向けては、それぞれの課題に応じ重点的に取り組むべき「基本耕作技術」の絞り込みと、実施の徹底を図る必要がある。

【作柄概況】

(準備期)

- ・準備作業は年内から実施され、一部地域で水田作のネリ畦や、畑作での作業遅れがあったが、概ね順調に実施された。

(苗床期)

- ・期間を通して好天に恵まれ、順調に苗が生育し、概ね健苗が育成された。

(植付～心止期)

- ・植付は、苗が順調なこともあり、順調に実施された。一部地域でほ地準備の遅れにより、植付期間が長引いた。(最盛3/9:前年・平年比で3日早)
- ・植付後は、3月中下旬の降雨不足の影響で、一時生育が緩慢となったが、その後の降雨もあり生育は順調に推移した。土寄は昨年、平年比3日早かった。
- ・4月中下旬は平年より気温が低く、降雨不足もあり生育が緩慢となったが、心止最盛は、前年、平年比で2日早く実施された。4/25霜害あり(都城地域)。
- ・収穫葉数は17.2枚で、平年より少ないが適正な葉数である。
- ・病害の発生はない。

(収穫・成熟期)

- ・1回目収穫は、概ね心止前に実施された。(前年、平年より1日早い)但し、中山間産地は、前年、平年より遅くなった。
- ・作柄は、中柄主体で、水田作に一部樹勢の弱いものあり。梅雨入り後、一部樹勢が強くなるものがみられた。
- ・横さらえは、成熟は順調にすすみ取り遅れは少なかった。風による葉傷みがあり比較的充実したものがみられた。
- ・6月には、立枯病、灰かび病が散見された。(立枯病の発生は、例年より早い傾向)

- ・総かぎは、立枯病や、樹勢の弱い作から開始された。
 - ・6月末以降の連続降雨により、若返りが目立ってきた。また、梅雨明けが遅れたこともあり、総かぎたばこの成熟が緩慢であった。
 - ・7月降雨量が多く、梅雨明け遅れで、根傷みによる黄化、歩留りが低下した。
 - ・7月末以降、梅雨明け後の高温、強日射により、未収穫葉に日焼け、消耗がみられた。収穫終了は7/29で、前年より1日遅く、平年並みであった。
 - ・あわせて、立枯病、赤星病等の多発も減収の要因となった。
- ※梅雨入り・・・5月30日(平年より1日早い) 梅雨明け・・・7月28日(平年より14日遅い)

(乾葉性状:販売時品質)

- ・中葉は概ね良質なものが多かったが、一部に熟不、モロメのものや、個人によってはI型グレーが生出し、品位低下につながった。
- ・合葉は、昨年より良質なものが増えたが、地域により成熟遅れの熟度不足のものや、若返りによる肥料切れの悪いものも多かった。
- ・本、上葉については、良質なものもあったが、全体的に、成熟遅れ、若返りの影響が大きく、熟度不足、充実不足、肥料切れの悪いものも多かった。

◆品質低下に及ぼした主な気象要因

- ①4月生育初期の少雨、低温：地上部の生育遅れ(根は水分を求めて伸長)
- ②梅雨入り後の降雨：一部樹勢が強くなり大柄化
- ③6月末以降連続降雨：若返り、成熟遅れ
- ④梅雨明けの遅れ：成熟の遅れ、収穫は計画的に実施せざるを得ない(共乾運営上、後作飼料用水稲など)

【来年作への取り組みの考え方】

◎昨年、今年と2年続けて品質の低下となったが、特に、若返り、作遅れなどで総かぎたばこの熟度不足、肥残りが目立った。気象的にも、成熟が促進されにくい条件が続いたが、その中でも安定して収量と品質の実績を上げている農家もいる。

◎気象変化によるたばこへの影響のブレ幅をできるだけ少なくするためのポイント

①これまでどおり産地に応じた標準作を継続する。(一部、大柄作、生育不良作の是正)

②早作タイプ(順調に生育し、肥切れが良く、葉が縮み、しわが寄る、葉元まで充実したもの)の作柄を作る。

(そのために、やるべき事を着実に手を打っていく)

◆基本耕作技術の確実な実践と定着

・地域、個人ごとに、反省、改善すべき点はそれぞれ異なる。自分が力を入れるべき「基本的な耕作技術」の内容を着実に実施する。

◆基本的耕作技術の主な重点課題

- ◎適正なほ地の早期選定(日当り・風当り・排水良・肥切れ良)
- ◎適期ほ地準備(+良質堆肥+適正な施肥量・施肥方法)
- ◎適期・適切な管理作業
- 完全収穫に向けた適期収穫の確実な実施
- 主要病害防除(耕種的・初発の防除)の徹底